

2018年度秋季大会松野賞の受賞者決まる

2018年度秋季大会において、松野賞候補者としてエントリーされた13名による口頭発表について審査・選考を行った結果、発表が特に優秀であった下記1名に松野賞を授与することを決定しました。

受賞者：三浦 悠（岡山理科大学）

発表題名：肱川あらしの発達に谷筋の水平気圧傾度が及ぼす影響

選考理由

三浦氏は、本研究において2017年10月から2018年3月まで愛媛県の肱川あらしについて気象観測を実施し、肱川あらしの基本的な特徴を明らかにしました。

谷の中で長期的に風や気圧を空間的に詳細に観測した点、また強風の原動力である水平気圧傾度力と肱川あらしの風速の関係を定量的、統計的に明らかにした点は、これまでの研究にない新しい結果と言えます。さらには、局地風の理解と予測精度向上に対して重要な成果を得たとも言えます。肱川あらしが観光資源の一つであることを考えると、気象学的な意義だけでなく社会的な意義もある研究成果となっています。当日の発表スライドは理解しやすく、説明も明瞭で、質疑応答も十分でした。これらのことから、三浦氏を日本気象学会2018年度秋季大会の松野賞受賞者といたします。